

平田ロータリークラブ 週報

発行日 毎週木曜日

平成18年 6月15日

No.1568

超我の奉仕

国際ロータリー会長 カール・ヴィルヘルム・ステンハマー
第2690地区ガバナー 延原 正

△事務局▽
島根県出雲市平田町2280-1
平田商工会議所2F TEL 0853-63-3232
FAX 0853-63-5365
A.M. 9:00 ~ P.M.5:00 土・日曜・祝祭日休局

会長 大谷 孝 副会長 加藤喜久
幹事 内田節夫 会計 加藤 昇

例会プログラム

例会	卓話者	演題
第1568回	松江市立病院麻酔科部長 安部陸美様	がんと緩和ケアとのかかわり~人生の収斂期に~
第1569回	会長 大谷 孝	一年を振り返って
第1570回	次年度会長 加藤喜久 18:30~	新年度会長方針

出席報告

会員数	出席者数	欠席者数	出席率	前回補正率
50	39	11(3)	82.98	91.30

欠席者 園・黒田・石橋・横野・園山・松浦・西谷・持田(石原恵・原田・曾田)
来訪者 ガバナー補佐 古瀬俱之・グループ幹事 山本和正

幹事報告

1. 新入会員候補紹介

○玉木和夫様(S24.1.17生) 日本生命平田営業所 所長
クラブ細則第11条第5節により、異議のある方は本日より7日以内に書面をもってお申し出下さい。

2. ガバナー月信 ロータリーの友誌をお配りしております。

理事会決定事項

○曾田八郎会員・原田一雄会員より一身上の理由により退会届が提出され、6月30日付退会を承認致しました。

スマイル

古瀬G補佐 これまで一年間、ガバナー補佐の活動につきましてご支援、ご協力を賜り本当にありがとうございました。

大島卓・森山・河原 古瀬G補佐様・山本幹事様一年間大変ご苦労様でした。

大谷・内田 古瀬G補佐様、山本グループ幹事様、ようこそおいで下さいました。この一年、ご教示ありがとうございました。

恒松 モンゴルの件、古瀬G補佐様には大変お世話になりました。ロータリーの友に紹介されました。

大島卓 連続2回例会欠席しました。メーカーはしてあります。

河原 6/8の夜の例会を欠席し、御迷惑をおかけしました。

飯塚大 安部先生ようこそいらっしゃいました。本年度最後の講師例会です。一年間お世話になりました。

7月6日例会受付当番

石橋 一彦・遠藤 栄・藤井 巖

★松江南クラブ(月) 6/26 ★出雲クラブ(火) 6/27 ★平田RAC(第1・3水)
★出雲中央クラブ(月) 6/26 ★松江クラブ(水) 6/28 ★松江東クラブ(木) 6/29
★松江しんじ湖(火) 6/27 ★大社クラブ(水) 6/21・6/28(株) ★出雲南クラブ(金) 6/23・6/30(株)

会長挨拶

只今、世界はサッカーW杯でわき立っています。スポーツは見ても、プレーしても楽しいものです。高齢になるとプレーするスポーツは限られてきます。いつまでも元気でプレーするのは誰もの望みです。ゴルフは性別、老若に関係なく楽しめるスポーツです。私はゴルフをはじめて40年以上になります。いよいよ面白くなりました。ゴルフはウォークあり、筋トレあり、また結構頭脳を使います。

またいわゆる19番、プレー後にみんなで酒を飲み交わし、プレー談義や健康、人生観など語るのも格別です。

数年前、大社カントリークラブで週2回プレーする90歳の老人に会いました。全くうらやましいと思いました。私達同級生は自分達も当面80-85歳まで頑張ろう。出来たらエイジシュートを目指そうとなりました。エイジシュートとは自分の年齢以下のスコアでプレーすることです。だから高年齢80歳位にならないければ達成出来ない記録です。年老いても健康でプレーしなければ達成出来ないゴルファーの最も名譽あるプレーです。ゴルファーにとって夢のまた夢のゴルフです。私にとっては夢の夢、またその夢かもしれないが趣味と健康を兼ねて頑張りたいと思います。

スピーチ

がんと緩和ケアとのかかわり～人生の収斂期に～

松江市立病院麻酔科部長

安部 陸 美 様



私が松江市立病院に赴任した約20年前は、まだがんを告知することは少なく、胃潰瘍やポリープなどの病名で手術をおこなうことが多い時代でした。その後、がん医療が急速に進歩し、がんが治る可能性が高まってきたこともあって、最近ではがん告知が増加し、特に手術の際には告知するのが一般的になっています。

統計的には、人口の約半数ががんにかかり、死亡原因の1/3を悪性腫瘍が占めていますので、がん患者さんが身近にいらっしゃる方も多いと思います。がんにならないためには、喫煙や飲酒を控えて予防することが可能です。異常に気づいた場合は早く検査を受け、早期発見に努めましょう。もし、がんと診断されたら、がん病変の治療とあわせて緩和医療・ケアをお勧めします。

緩和医療・ケアとは、人として生きることを積極的に援助する医療・ケアのことです。以前は、がん病変の治療が望めなくなった段階で緩和ケアがおこなわれていましたが、現在では、がんの診断が確定した早期から、全人的な苦痛（精神的疼痛・社会的疼痛・身体的疼痛・スピリチュアルペインの4つ）の治療をおこなうことが勧められています。早期から開始しておくことで、がん病変が進行した場合にがん治療から緩和医療・ケアへ自然にウエイト・チェンジしていくことが可能になります。

「100万回生きたねこ」という絵本があります。100万回死んで生きたねこのお話ですが、100万回目は満足できる生き方ができたため、100万1回目には生き返ることを希望しなかったそうです。1年に何回かは、最期を迎える時のことを考えることがあっても良いのではないのでしょうか。そして、終末期をどのように過ごしたいのか（自宅か、一般病棟か、あるいは緩和ケア病棟なのか）皆さんも考えてみてはいかがでしょうか。医療現場も従来の「お任せ」ではなく「患者さん中心」へと変わってきています。

緩和ケア病棟には、「これからの生き方を考えるところ」、「自分らしく生きる場所」、「自分らしく生き最期を迎えるところ」の3つの役割があると考えています。必ずしも終末期を迎えるばかりではなく、自分の生き方を見つめ直した上で、一般病棟に戻ってがん病変に対する抗がん剤治療を受けられる方もあります。松江市立病院の緩和ケア病棟では、音楽療法やリハビリ療法が行われるのに加え、お誕生会ではお酒をたしなめます。また、病院でありながら喫煙室も設置されています。もちろん寝たまま入浴できる設備も整っています。

最後になりますが、患者さんが、質の高い医療を提供できる病院を受診されることを望むとともに、心から信頼できる医療者と巡り会っていただけることを祈っています。